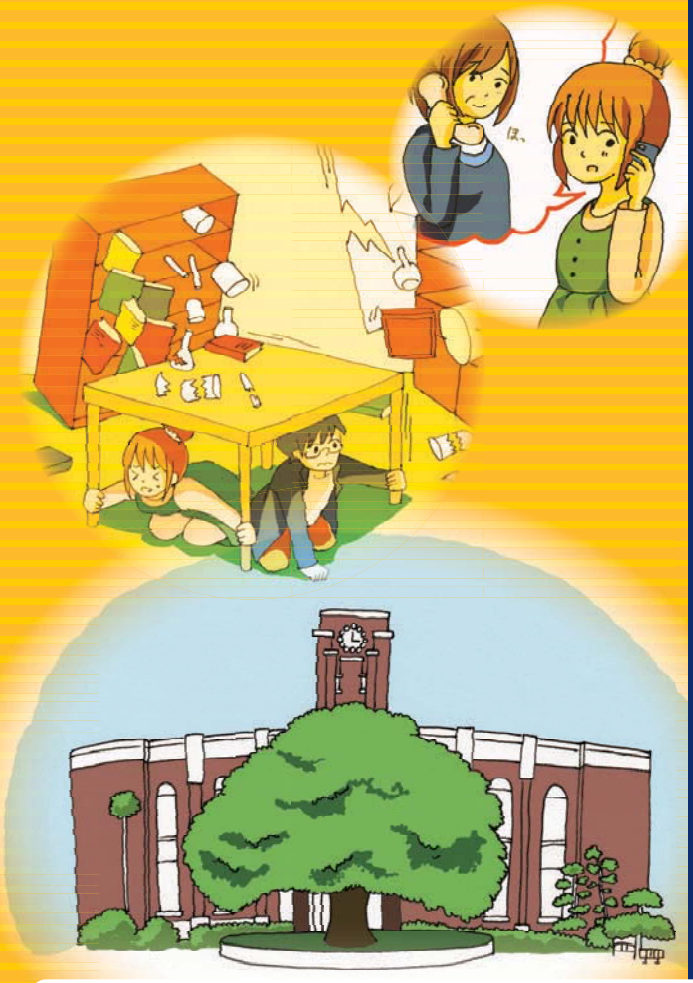
学生用

地震対応マニュアル



地震に備えて……1

地震が発生したとき …3

（参考−1）
自宅での備え……7

（参考−2）
災害用伝言サービス
（家族や友人間の安否確認）…8

（参考−3）
緊急地震速報 ……10

（参考−4）
安全確保行動1−2−3…10

地震発生時の一時集合場所・
避難場所・緊急連絡先一覧
……11

●緊急時の連絡先

（連絡先）

（電話番号）

（メールアドレス）

●地震発生時の一時集合場所

●避難場所（一時集合場所に危険が及んだ場合）

京都大学

地震に備えて

2024年（令和６年）１月には、最大震度７を観測した石川県能登半島地震が発生し、能登地方では、建物倒壊などにより、多数の住民が死傷するなど、甚大な人的被害や住家被害が発生した。また、広範囲に及ぶ長期間の停電や交通機能のマヒなどの間接被害が社会活動に大きな影響を及ぼした。

これにより、1995年（平成７年）の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）以降の約30年間で、我が国では、最大震度７の地震を７回、震度６強の地震を18回記録したことになり、平均すると、ほぼ毎年のように震度６強以上の地震が発生していることになる。

今後30年以内の発生確率が80%程度、発生すればマグニチュード８～９とされる南海トラフ地震との関連で、近畿地方の内陸地震は活動期に入ったといわれ、京都市の地震被害想定では、吉田キャンパス、桂キャンパスで最大震度７の地震が想定されている。

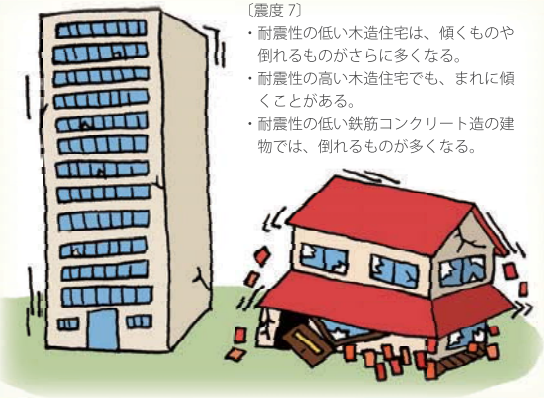
各キャンパスの想定震度

キャンパス	最大震度	最も影響のある地震
吉田	６強～７	花折断層
宇治	６弱～６強	生駒断層、宇治川断層 黄檗断層、南海トラフ地震
桂	７	樫原水尾断層

※　京都市・宇治市地域防災計画から引用

耐震性が高い　耐震性が低い

〔震度６強〕
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや山体の崩壊が発生することがある。



〔震度７〕
- 耐震性の低い木造住宅は、傾くものや倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

耐震性が高い　耐震性が低い

本学としては、建物の耐震化、食料・飲料水などの備蓄など、危機管理計画に基づく取組を推進しているところであるが、地震被害の最小化のためには、構成員一人一人の日頃の取組が極めて重要である。

大学における平素の“確認事項”と“遵守事項”

地震が発生した際に適切な行動ができるよう、平素から次の事項を確認しておく。

❶ 建物の耐震性能（本学 HP「京都大学施設の耐震性能」を参照）
❷ 建物内の二方向以上の避難経路（廊下・階段）
❸ 消火器、自動火災報知設備の発信機・受信盤、屋内消火栓・屋外消火栓などの設置場所（特殊な消火設備が設置されている場合は、その特性や使用方法を含む。）
❹ 救急箱、AED、ヘルメット、懐中電灯等の安全用品の設置場所
❺ 環境安全保健機構産業厚生部門（健康管理室）、医学部附属病院及び近隣の医療機関の場所
❻ 学部・研究科等で定められている緊急連絡先
❼ 安否確認システムの登録方法等
❽ エレベーター使用中に地震に遭遇した場合の対応方法等
❾ 学部・研究科等で定められている地震災害の際に避難する場所（一時集合場所、避難場所）

地震が発生した際に、迅速な防災活動を行うことができるよう、平素から次の事項を遵守する。

❶ 非常口、防火戸、防火シャッターの前には物を置かないこと。
❷ 消火器、自動火災報知設備、屋内消火栓、避難器具、消防用進入口などのまわりに物を置かないこと。
❸ 消火器は、所定の場所から動かさないこと。
❹ 避難路確保のため、室内を整理整頓し、通路、出入口、廊下、非常口等に障害物を置かないこと。
❺ 高圧ガスボンベは、床と壁の両方に固定されたボンベスタンドに立て、鎖で弛みなく上下 2 箇所を固定するか、シリンダーキャビネットに収納すること。
❻ 書棚・ロッカー等や実験機器は、地震時に移動・転倒しないよう、床・壁等と適切に固定するなどの対策を講じること。また、書棚・ロッカー等の上部に重い物や落下すると危険な物を置かないこと。
❼ 危険な薬品を使用する者は、地震時に容器が落下・転倒・衝突等によって破損しないように適切な安全対策を講じること。また、万一、容器が破損した場合でも、薬品の流出・混合による火災・爆発等が発生しないように分離して、保管すること。
❽ 指定された場所以外に駐車・駐輪しないこと。
❾ 大学が行う防火防災に関する研修や訓練に積極的に参加すること。

＜常に携行していることが望まれる物品の例＞　小型の懐中電灯、ホイッスル、携帯ラジオなど

＜研究室等に準備しておくことが望まれる物品の例＞
懐中電灯、運動靴、予備眼鏡、常備薬、非常食、手袋、マスク、携帯ラジオ、携帯電話の充電装置など

大地震に遭遇した場合、自分の命を守り、被害を小さくするのは自分自身であるという意識をもって、自宅や下宿でも普段から地震対策に取り組んでおく。

（参考ー１ 「自宅での備え」、参考ー２ 「災害用伝言サービス」 参照）

- 家具の転倒防止、落下物の防止対策
- 食料・飲料水・生活必需品の備蓄
- 非常用持出品の準備
- 家族や友人間の安否の確認方法　　など

地震が発生したとき

― 身体を守り、火事を出さない ―
― 自己の安否を大学に自主的に報告 ―
― 災害時要配慮者（障害者、外国人、高齢者など）への配慮 ―

室内で地震を感じたり、緊急地震速報を受信したら

1. **地震発生**ー揺れを感じたり、緊急地震速報を受信した場合は、すぐに実験等を中断する。
   授業等を受けている場合は、教職員の指示に従って行動する。（参考ー３ 「緊急地震速報」参照）
2. **安全確保**ー安全確保行動 1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を実践する。（参考ー４「安全確保行動 1-2-3」参照）
3. **負傷者の確認**ー揺れが収まったら、お互いに声を掛け、負傷者の有無を確認し合う。
4. **出火防止**ー火気使用設備器具の直近にいる者は、地震を感じたとき又は大きな揺れが収まったときに、ガスコックや燃料バルブの閉鎖・電源の遮断等の出火防止措置を行う。

負傷者・要救助者があれば

1. **協力要請**ー救出や応急手当を要する事態があれば、周囲の人に協力を呼びかける。
2. **救出の原則**ー救出活動は、生存率の高い時間内に迅速かつ効率的に行うため、人命の危険が切迫している人から救出し、救助を要する人が多数いる場合は、救出作業が容易な人を優先する。
3. **火災発生時**ー救出活動の場所で、同時に火災が発生している場合は、原則として火災を制圧してから救出活動を行う。
4. **応急手当**ー負傷者は、安全な場所へ搬送してから、学部・研究科等に備えられている救急箱や建物に設置されている AED などを使用して、救命等の応急手当を行う。
5. **医療機関への搬送**ー必要に応じて、医学部附属病院又は近隣の医療機関へ搬送する。

避難・負傷・行方不明の確認

❶ **避難の判断**ー大きな揺れが収まった後に、安全な避難経路を選定のうえ、安全な屋外に落ち着いて移動する。

※**耐震性のある建物にいる場合**ー倒壊又は崩壊する可能性は低いので、慌てて建物の外へ出ない。

耐震性能を満たしていない建物にいる場合ー大きく被災する可能性があることから、余震に注意しながらできる限り速やかに避難する。

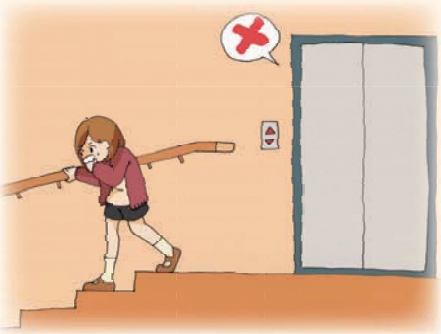
❷ **災害時要配慮者への配慮**ー障害者、外国人、高齢者、乳幼児、妊産婦、入院患者等を避難支援しながら優先して避難させる。

❸ **避難の方法**ー徒歩（エレベーターは使用しない。）

❹ **避難の姿勢**ー埃を吸わないようにハンカチ等で口・鼻を押さえ、落下物等に注意する。火災が発生している場合は、煙を吸わないように、濡れたハンカチ等で口・鼻を押さえ、姿勢を低くする。

❺ **防火戸等の閉鎖**ー避難後の火災等の拡大を防ぐため、全員の避難を確認した後、部屋の扉と防火戸、防火シャッターを閉める。

❻ **落下物の注意**ー屋外へ出る際には、ガラスや瓦などの落下物に注意する。（窓ガラスは、設置されている高さの１／２程度の距離まで横方向へ飛散する。）



❼ **屋外への避難**ー学部・研究科等で定められている一時集合場所へ避難する。なお、一時集合場所に危険が及んだ場合は、教職員の指示･誘導に従って、更に、避難場所に避難する。

❽ **点呼による確認**ー負傷や行方不明の有無、避難者数の確認に協力する。要請があれば、火災や救出事案等への活動協力し、落ち着けば、安否確認システムにより安否を登録する。

○　エレベーターの緊急停止について

大半のエレベーターは、震度４以上の揺れで最寄りの階に自動停止する管制機能を有している。したがって、自動停止したときは、その階で降りて、階段を使用して避難する。

なお、その場（階の途中等）で停止した場合は、インターホンの使用やドアをたたく等の方法により、閉じ込められていることを外部に知らせ、救出を待つ。

安否を知らせるには、安否確認システムで

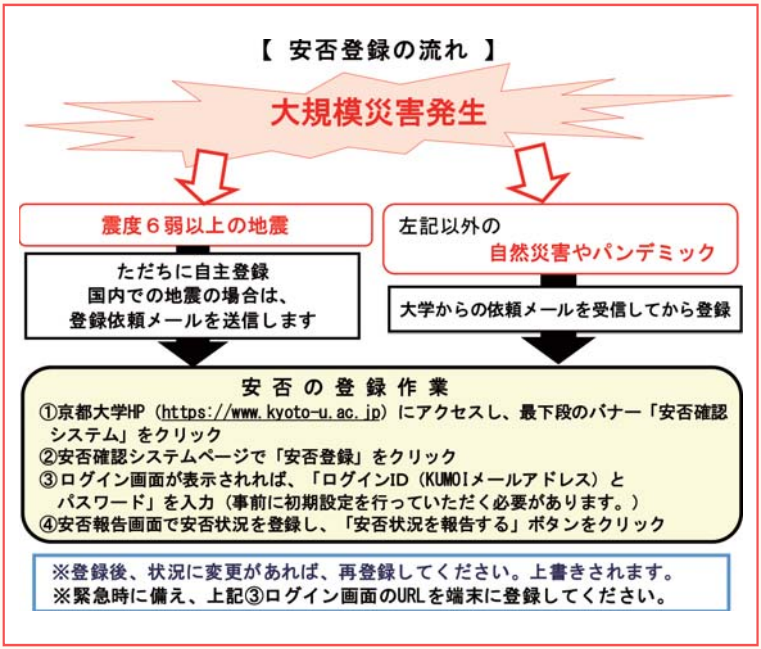
現在地において震度６弱以上の地震が発生すれば、

❶ 自主的にスマートフォンやパソコン、タブレット端末から「安否確認システム」にアクセスして、自己の安否状況を登録する。

❷「安否確認システム」により、安否の登録ができない場合は、所属する学部・研究科等へ電話やメール等により、自己の安否を報告する。

○　**自主報告がなく、安否が確認できない者に対する追跡調査**

所属する学部・研究科等では、本人への電話やメールによる直接連絡、災害用伝言サービス（参考ー２）での登録内容の確認、本学ホームページ、学部・研究科等のホームページ、KULASIS Information による本学への連絡の呼びかけ、家族や友人等への問い合わせなどにより、安否確認の追跡調査を行う。



火災その他の緊急事態が発生したとき

（共通事項）

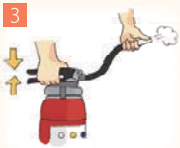
○ 地震発生後、火災その他の緊急対応を要する事実を発見した者は、大声で周囲にいる者に知らせ、自動火災報知設備の発信機を押す。

○ 電話がつながる場合は、119 番通報を行い、電話がつながらない場合は、周囲にいる者と手分けして、近くの消防機関へ口頭で伝えに行く。
また、できる限り速やかに、火災の発生場所・被害状況等を学部・研究科等で定めた連絡先へ連絡する。

消火器の使い方

1

2

3


（火災の場合）

○ 火災発見者及び火災現場周辺にいる者は、自分自身の安全を確認した上で、消火器や屋内消火栓・屋外消火栓等で初期消火を行う。

○ 複数の出火場所がある場合は、避難経路となる場所を優先して消火を行う。

○ 火災が拡大し消火が困難となった場合は、決して無理をすることなく、在室者の避難完了を確認した後、部屋の扉と防火戸（防火シャッター）を閉鎖して避難する。

（危険物・毒性物質等の発散その他の特殊な災害が発生した場合）

○ 危険物・毒性物質等が発散した場所やその周囲の建物にいる者は、直ちに、ドア・窓を閉め、ガス・水道・エアコン・換気扇を止め、ドア・壁・窓ガラスから離れ、専門的な知識や技術を有する教職員の指示の下に行動する。

（放射性物質に関係する事故が発生した場合）

○ 放射性物質に関する事故が発生した場合又は発生するおそれがある場合、発見者は速やかに放射線取扱主任者及び学部、研究科等の長に連絡し、以後、放射線取扱主任者等の指示の下に行動する。

二次災害の防止　“「立入制限」の遵守”

地震による被災建物応急危険度判定で「危険」と判定された建物や、危険物・毒性物質等の発散等に伴う危険区域については、ロープやテープを張る、出入口付近に明示する等の方法により立入禁止が表示されるので、その指示を遵守する。

授業休止・再開

「京都大学における災害等に伴う休講等の措置等に関する取扱要項」で定めている。

（授業の休止）❶ 震度６弱以上の地震が発生したとき

❷ 京都市営バスが全面運休又は、京都を起点するＪＲ西日本、阪急、京阪、近鉄、京都市営地下鉄のうち、３以上が全面的に又は部分的に運休したとき

❸ 危機対策本部長が授業の休止を決定したとき

（休止期間）被災状況や復旧状況、交通機関等の状況等を勘案して決定する。

（広報周知）授業等の休止・再開は、KULASIS Information、本学ホームページ等を通じて、学生及び関係者に周知する。

一斉帰宅の抑制、帰宅者支援

地震等による公共交通機関の運休や道路の通行止めにより、多くの人が一斉に徒歩で帰宅行動を開始すると、各地で混雑・混乱が発生して帰宅者の安全が確保できない事態を招くとともに、消防車等の緊急車両の通行が阻害され、被災地の救援活動に支障をきたす。

そのため、本学では、帰宅予定者を帰宅の見通しが立つまで安全な場所にとどまらせ、無闇に移動させないことを前提に、情報の提供や飲料水、食料の配布、一時的に待機するスペース（一時収容施設）の提供等の対策を実施することとしている。

帰宅が困難になると想定される者は、学部・研究科等や対策本部の指示に従って、行動すること。

（参考－1） 自宅での備え

～災害に対する自宅や下宿での備え～

災害時においては、自分の命は自分で守ることが原則である。そのためには自宅や下宿にいる場合の備えも、建物の耐震性能の有無にかかわらず大切である。

○　家具の転倒、落下物を防止する

阪神・淡路大震災では、倒れてきた家具で多くの方が亡くなった。家具は必ず倒れるものと考え、転倒防止対策を講じておくことが必要である。

・家具や大型電化製品は転倒しないよう、壁や天井に固定する。
・ベッドの周囲には、できるだけタンスや書棚を置かない。
・窓ガラスや家具のガラスには、飛散防止フィルムを貼る。
・手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備える。

○　食料・飲料水・生活必需品などを備蓄する

・最低でも３日間、できれば１週間程度の食料品等を備蓄する。
・冷蔵庫等を活用して、日常生活の食材を普段から多めにストックし、半分使ったら、買い足しておく「循環備蓄（ローリングストック）」で、無理なく備蓄を習慣化する。
・飲料水は１日１人３リットル、トイレなどの生活用水は浴槽の水張りで準備する。
・カセットコンロなどの熱源を準備する。（ボンベも忘れずに）

ご飯（米、パックご飯）、ビスケット、板チョコ、レトルト食品、缶詰、日持ちする野菜･果物（タマネギ、ジャガイモ、バナナ、リンゴ、ミカン）、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ライター（マッチ）、ロウソク、カセットコンロ（予備ボンベ）など

○　非常用持出バッグを準備する

自宅等が被災すれば、市町村が開設した指定避難所等で避難生活を送ることになるので、非常時に持ち出すものをあらかじめ準備しておく。（バッグの重さは、男性 15kg、女性 10kg 程度を目安に）重すぎる場合は、自宅に保管し、二次持出品とする。

・**一次持出品**ー避難生活にすぐに必要なもの。
・**二次持出品**ー救援物資が届くまでの間必要となるもの。（必要の都度持ち出す。）

食料・飲料水、貴重品（預金通帳、健康保険証、印章、現金）、救急薬品・常備薬、携帯電話、携帯電話の充電装置、携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池、ヘルメット（帽子･防災ずきん）、衣類、生活用品（ライター、軍手、紙コップ、缶切り、ビニールシート、栓抜き、ウェットティッシュなど）、その他（雨具、防寒用品など季節や天候に応じて必要なものなど）※　乳児のいる家庭は、ミルク、ほ乳瓶、紙おむつなどを準備する。

○　家族や友人で話し合い、安否の確認方法を決める

・自治体から防災マップ（ハザードマップ）を入手して、落ち合う集合（避難）場所や避難経路を話し合って決めておく。
・災害用伝言サービスを利用して、家族や友人間の安否の確認方法を決めておく。
（参考ー２ 「災害用伝言サービス」 参照）

（参考－2）　災害用伝言サービス（家族や友人間の安否確認）

地震や台風、集中豪雨など大きな災害が発生すると、被災地に電話が殺到し、回線が混雑し、つながりにくくなる。そのため、通信各社では、こうした通信の混雑の影響を避けながら、家族や友人との間での安否の確認や避難場所の連絡等をスムーズに行うため、固定電話・携帯電話・インターネットによる「災害用伝言サービス」を提供している。

（種　　類）　災害用伝言ダイヤル（171）－電話で安否情報を音声で伝言
災害用伝言板－電話のインターネット機能で安否情報を伝言
災害用伝言板（web171）－電話番号をキーに安否情報を伝言・通知

（利用開始）　震度６弱の地震が発生した場合など

（体験利用）　毎月 1,15 日、正月３が日、防災週間、防災とボランティア週間

災害用伝言ダイヤル（171）　（携帯電話、スマホから）

音声を使用した安否確認サービス（NTT 東・西日本が提供）。
30 秒以内の音声情報を伝言できる。（最大 20 件まで登録可能）
災害用伝言板（web171）と相互確認機能有り。

＜伝言の登録（録音）＞

「171」＋「1」＋「電話番号（市外局番から）」＋「自分のメッセージ録音」

①「171」をダイヤルする。（以降はガイダンスに従って操作する。）
②「1」をダイヤルする。（暗証番号を付ける場合は「3」＋「4 桁の暗証番号」）
③「被災地の自宅（又は、連絡を取りたい相手）の電話番号」をダイヤルする。
④ 30 秒以内で自分のメッセージを録音する。

＜伝言の確認（再生）＞

「171」＋「2」＋「電話番号（市外局番から）」＋「相手のメッセージ再生」

①「171」をダイヤルする。（以降はガイダンスに従って操作する。）
②「2」をダイヤルする。（暗証番号がある場合は「4」＋「4 桁の暗証番号」）
③「被災地の自宅（又は、連絡を取りたい相手）の電話番号」をダイヤルする。
④相手のメッセージが再生される。

災　害　用　伝　言　板　（被災地域内の携帯電話、スマホから）

携帯電話等のインターネット機能を利用した安否確認サービス。
「現在の状態と 100 文字以内」の情報を伝言できる。（最大 10 伝言まで登録可能）

＜伝言の登録＞（災害時には公式サイトのトップ画面に「災害用伝言板」サイトが表示される。）

①「災害用伝言板」にアクセスし、「登録」を選択する。
②現在の状態を選択肢から選び、コメントを入力する。
③最後に「登録」を選択し、登録完了する。

＜伝言の確認＞

①「災害用伝言板」にアクセスし、「確認」を選択する。
（伝言の確認は、パソコン等からもができる。）
NTT ドコモ　http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
KDDI（au）　http://dengon.ezweb.ne.jp/
ソフトバンク／ワイモバイル
http://dengon.softbank.ne.jp/
②安否確認したい相手の「携帯電話番号」を入力し、「検索」を選択する。
③伝言一覧が表示されるので、確認したい伝言を選択する。

災害用伝言板（web171）　（携帯電話、スマホ、パソコンから）

インターネットを利用した電話番号をキーとする安否確認サービス。（NTT 東・西日本が提供）
「現在の状態と 100 文字以内」の情報が伝言できる。（最大 20 件まで登録可能）
事前設定により、メールや電話（人工音声）による通知機能を有し、災害用伝言ダイヤル（171）と相互確認機能が有る。

＜登録・確認＞

①URL　https://www.web171.jp/　にアクセスする。
②伝言を登録（確認）したい方の電話番号を入力して、「登録（確認）」を選択する。
③（登録）現在の状態を選択肢から選び、コメントを入力して、「登録」を選択する。
（確認）災害用確認者の伝言を登録することもできる。（登録時の入力方法と同じ。）
※相手先のアドレス・電話番号を登録することにより、伝言を通知できる
（メール 10 件、電話 1 件）
※他社携帯の伝言も検索できる。

安否情報を登録、確認、検索

自然災害が発生した場合、家族や知人等の消息が不明な際に氏名を入力することで安否情報を登録、確認、検索することができる。

グーグル　「google パーソンファインダー」
・・・　https://www.google.org/personfinder/japan

（参考－3） 緊急地震速報

最大震度５弱以上と推定した地震において、強い揺れ（震度４以上）が予測される地域の携帯電話（携帯電話、スマートフォン）に一斉に告知するもの。

緊急地震速報を受信した場合は、周囲の状況に応じて、あわてずにまず身の安全を確保する。

※　地震の発生直後に、震源近くで地震（P 波、初期微動）をキャッチし、位置、規模、想定される揺れの強さを自動計算し、地震による強い揺れ（S 波、主要動）が始まる数秒～数十秒前にに知らせるシステムである。しかし、震源に近い場所では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがある。

（参考－4） 安全確保行動１－２－３

「効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議」が提唱する地震発生時の身を守る安全行動である。

地震発生時、激しい揺れに襲われるまで、または何かが落下してくるまで、自分の身を守るためには数秒の猶予しかないかもしれない。

いざという時にすばやく自分自身の安全を確保するためには、日頃の訓練で、この行動を習慣化することが重要である。

● **室内にいる時に地震が発生したら**

その場で安全確保行動 1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を実践する。

① まず体勢を低くして地面に近づける。
（強い揺れであなたが倒れる前に！）

② 固定されたデスクやテーブルの下に入り、頭を守る。頭を守るものがない場合は、腕や荷物を使う。

③ 揺れが止まるまで動かない。

● **外出中に地震が発生したら**

ビル、木、電柱や電線から離れた場所を探し、そこで安全確保行動１－２－３「まず低く、頭を守り、動かない」を実践する。

揺れが止まるまでそこに留まる。

● **自動車運転中に地震が発生したら**

周りに何もない場所に停車し、シートベルトを締めて地震が終わるまでそこで停止する。

地震発生時の一時集合場所・避難場所・緊急連絡先一覧（令和７年４月）

◎地震災害時においては、本一覧の記載事項に関わらず、教職員から別に指示があった場合は指示に従って行動してください。

【一時集合場所】地震等が発生した際に、各部局の教職員・学生等が建物から一時的に退避する場所をいいます。ここで、負傷や行方不明の有無を確認するとともに、災害等が発生しておれば、ここを拠点にお互いに協力して、救出救護活動や消火活動などの必要な災害対応を行います。各部局が建物周辺から在館者数に応じて広場、空き地等を指定しています。

【避難場所】一時集合場所が地震に伴う大火災による二次災害の危険に見舞われたときや建物倒壊等で使用できないときに避難する場所をいい、近隣のグラウンドや河川敷など安全で広い平地を各部局で指定しています。

吉田キャンパス（研究科・学部）

名　　称	一時集合場所	避難場所	緊急時の連絡先		
			連絡先	電話番号	E-Mail
文学研究科・文学部	文学部校舎南西広場 総合研究5号館前南側広場(5号館使用者)	吉田グラウンド	文学研究科事務部教務掛 文学研究科事務部図書掛	075-753-2709 075-753-2715	bun.kyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp 010tosho@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
教育学研究科・教育学部	教育学部本館東側広場	吉田グラウンド	教育学研究科事務部教務掛	075-753-3010	020kyokyo2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
法学研究科・法学部	法経本館南側広場	吉田グラウンド	法学研究科事務部総務掛	075-753-3102	soumu03@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
公共政策大学院	本部構内の北西角（百万遍交差点近くの空地）	吉田グラウンド			
経済学研究科・経済学部	法経東館西側の広場	吉田グラウンド	経済学研究科事務部教務掛	075-753-3406	040kyoumu@mil2.adm.kyoto-u.ac.jp
経営管理大学院	総合研究2号館南側の玄関前スペース	農学部グラウンド	経済学研究科事務部 経営管理大学院掛	075-753-3410	keieikyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
理学研究科・理学部	（次の4箇所のうち最も近い場所） 理学研究科1号館駐車場、理学研究科4号館玄関前、 理学研究科5号館玄関前、理学研究科6号館東側通路	農学部グラウンド	北部構内事務部教務・図書課 理学研究科学部教務掛 北部構内事務部教務・図書課 理学研究科大学院教務掛	075-753-3615 075-753-3613	050kyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
医学研究科・医学部	医学部構内北側（先端科学研究棟以北） →芝蘭会館東側テニスコート周辺 医学部構内南側（医学部D棟以南） →医学部正門北側の通路 病院西構内（分子生物実験研究棟） →人間健康科学科南棟南側の広場 病院西構内（メディカルイノベーションセンター棟、医薬系総合研究棟） →サービスサプライ棟の南側	芝蘭会館東側テニスコート周辺 （状況によって） 病院東構内先端医療研究開発機構(iACT)棟周辺	医学研究科事務部 教務課学部教務掛 医学研究科事務部 教務課大学院教務掛	075-753-4325 075-753-4306	060kyoumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
医学研究科人間健康科学系専攻・医学部人間健康科学科	人間健康科学科南棟南側の広場	鴨川左岸河川敷（荒神橋―丸太町橋間）	医学研究科事務部 教務課人間健康教務掛	075-753-9313	060-992hs-kyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
医学部附属病院	（次の7箇所のうちの最も近い場所） P1駐車場（外来診療棟南側） 第三臨床研究棟の南側 先端医療研究開発機構(iACT)の南側 第一臨床研究棟の南側 サービスサプライ棟の南側 医生研3号館の西側 南病棟の南側	（次の7箇所のうちの最も近い場所） P1駐車場（外来診療棟南側） 第三臨床研究棟の南側 先端医療研究開発機構(iACT)棟の南側 第一臨床研究棟の南側 サービスサプライ棟の南側 医生研3号館の西側 南病棟の南側	医学部附属病院事務部 総務課総務掛	075-751-3005	soumuk@kuhp.kyoto-u.ac.jp
薬学研究科・薬学部	薬学研究科本館正門前駐車場付近	鴨川左岸河川敷（荒神橋―丸太町橋間）	薬学研究科事務部教務掛	075-753-4514	080yakukyomu1@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
工学研究科・工学部（吉田地区）	本部構内（次の2箇所のうちの最も近い場所） 総合研究8号館の南側 工学部総合校舎の南側通路	本部構内正門前広場	桂地区（工学研究科）事務部 教務課教務掛	075-753-5000	090kkyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
農学研究科・農学部	（次の４箇所のうち最も近い場所） 農学部総合館南側の通路（生協の北側）、 北側の広場、 南東角及び北西角の通路	農学部グラウンド	北部構内事務部教務・図書課 農学研究科学部教務掛 北部構内事務部教務・図書課 農学研究科大学院教務掛	075-753-6012 075-753-6014	agri-kyoumu1@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp agri-kyoumu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

名　　称	一時集合場所	避難場所	緊急時の連絡先		
			連絡先	電話番号	E-Mail
人間・環境学研究科・総合人間学部	吉田グラウンド	吉田グラウンド	人間・環境学研究科事務部 総務掛	075-753-6533	110soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
エネルギー科学研究科	総合研究8,10,13号館 →総合研究8号館南側 総合研究11,12号館,工学部総合校舎、 総合研究16,17号館 →総合研究11号館西側	本部構内 →吉田グラウンド	エネルギー科学研究科事務部 総務掛	075-753-4871	energysoumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
	先端エネルギー科学実験棟 →先端エネルギー科学実験棟南側の通路	先端エネルギー科学実験棟 →農学部グラウンド			
アジア・アフリカ地域研究研究科	総合研究2号館・別館（本部構内） →総合研究2号館中庭	総合研究2号館・別館（本部構内） →本部構内正門北側広場・吉田グラウンド	地域研究事務部教務掛	075-753-7374	kyoumu@asafas.kyoto-u.ac.jp
	稲盛財団記念館（薬学部構内） →稲盛財団記念館南側駐車場付近	稲盛財団記念館（薬学部構内） →鴨川左岸河川敷（荒神橋ー丸太町橋間）			
情報学研究科	（次の4箇所のうちの最も近い場所） 百周年時計台記念館北東の広場及び通路 総合研究12号館南側の広場及び通路 総合研究8号館北東角の通路 総合研究7号館北側通路	吉田グラウンド	情報学研究科事務部総務掛	075-753-5945	140soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
	医学部構内 →芝蘭会館東側テニスコート周辺				
生命科学研究科	医学部構内 →医学・生命科学総合研究棟の東側通路	医学部構内 →芝蘭会館東側テニスコート周辺	生命科学研究科事務部総務掛	075-753-9221	150soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
	北部構内 →農学・生命科学研究棟の南側通路	北部構内 →農学部グラウンド			
	薬学部構内 →薬学研究科本館正門前の駐車場付近	薬学部構内 →鴨川左岸河川敷（荒神橋ー丸太町橋間）			
	病院西構内 →iPS細胞研究所棟南側通路	病院西構内 →鴨川左岸河川敷（荒神橋ー丸太町橋間）			
	本部構内（総合研究16号館） →総合研究11号館西側	本部構内（総合研究16号館） →吉田グラウンド			
地球環境学堂・学舎	総合研究14号館北側の空き地周辺 工学部物理系校舎北側の駐車場付近	農学部グラウンド	地球環境学堂事務部総務掛	075-753-5630	160tikyukansoumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
総合生存学館	東一条館玄関南側の駐車スペース	吉田グラウンド	総合生存学館事務部総務掛	075-762-2001	gsais-soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

（研究所・センター等）

名　　称	一時集合場所	避難場所	緊急時の連絡先		
			連絡先	電話番号	E-Mail
人文科学研究所	人文科学研究所本館（総合研究4号館）の東玄関前（北門南側）	本部構内正門前広場	人文科学研究所事務部総務掛	075-753-6902	zinbunsoumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
	人文科学研究所分館玄関前空地	農学部グラウンド			
医生物学研究所	南部総合研究1号館・医生研1号館南側駐車場周辺、医生研動物棟1南側(医生研2号館南西側)、iPS細胞研究所棟南側通路、西側駐輪場周辺	鴨川左岸河川敷（荒神橋ー丸太町橋間）	医生物学研究所総務掛	075-751-3803	330soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
経済研究所	（いずれか最も近い場所） 経済研究所本館南側広場 総合研究2号館の中庭	本部構内正門前広場	経済研究所事務部総務掛	075-753-7102	soumu@kier.kyoto-u.ac.jp
基礎物理学研究所	基礎物理学研究所研究棟西側の通路	農学部グラウンド	北部構内事務部総務課基礎物理学研究所総務・共同利用掛	075-753-7000	390soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
数理解析研究所	数理解析研究所西側の通路	農学部グラウンド	北部構内事務部総務課数理解析研究所総務掛	075-753-7202	400soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
東南アジア地域研究研究所	総合研究2号館（本部構内） →総合研究2号館の中庭	総合研究2号館（本部構内） →本部構内正門北側広場 稲盛財団記念館（薬学部構内） →鴨川左岸河川敷（荒神橋ー丸太町橋間）	地域研究事務部総務掛	075-753-7302	tounansoumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
アフリカ地域研究資料センター	稲盛財団記念館（薬学部構内） →稲盛財団記念館南側駐車場付近				

名　　称	一時集合場所	避難場所	緊急時の連絡先		
			連絡先	電話番号	E-Mail
iPS細胞研究所	南部総合研究1号館・医生研1号館南側駐車場周辺、医生研動物棟1南側(医生研2合館南西側)、iPS細胞研究所棟南側通路、西側駐輪場周辺	鴨川左岸河川敷(荒神橋ー丸太町橋間)	iPS細胞研究所事務部総務掛	075-366-7001	ips-soumu@cira.kyoto-u.ac.jp
フィールド科学教育研究センター	農学部総合館北側の広場	農学部グラウンド	フィールド科学教育研究センター事務室	075-753-6416	fserc-jimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
学術情報メディアセンター	学術情報メディアセンター北館 →総合研究5号館西側玄関前広場 総合研究5号館 →総合研究5号館西側玄関前広場 学術情報メディアセンター南館 →学術情報メディアセンター南館玄関前の広場	本部構内正門前広場 (状況によって) 吉田グラウンド 農学部グラウンド	情報部情報推進課総務掛	075-753-7400	740jyohokikaku-soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
人と社会の未来研究院	稲盛財団記念館(川端キャンパス) →稲盛財団記念館駐車場付近 南部総合研究1号館・医生研1号館 (病院西構内) →南部総合研究1号館・医生研1号館南側の駐車場周辺	稲盛財団記念館(川端キャンパス) →京都織物跡運動施設テニスコート周辺 南部総合研究1号館・医生研1号館 (病院西構内) →鴨川左岸河川敷(荒神橋ー丸太町橋間)	人と社会の未来研究院事務室 (本部構内(文系)共通事務部 総務課総務・国際掛)	075-753-9670	ifohs-jimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
野生動物研究センター	正面出入口前及び東側コインパーキング	農学部グラウンド	野生動物研究センター事務掛	075-771-4393	jimu_yasei@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
附属図書館	附属図書館正面玄関前の広場	本部構内正門前広場	附属図書館事務部総務課経理掛	075-753-2615	keiri660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
高等研究院	高等研究院本館、西館、高等研究院物質-細胞統合システム拠点研究棟 →西部講堂前広場 (上記以外) 医学部構内に勤務する教職員等 →医学研究科・医学部の指定する場所 他部局所属の主任研究者の研究グループに所属する教職員等 →当該主任研究者の所属部局の指定する場所	高等研究院本館、西館、高等研究院物質-細胞統合システム拠点研究棟 →西部講堂前広場 (上記以外) 医学部構内に勤務する教職員等 →医学研究科・医学部の指定する場所 他部局所属の主任研究者の研究グループに所属する教職員等 →当該主任研究者の所属部局の指定する場所	高等研究院等事務部総務企画掛	075-753-9753	ias-admin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
国際高等教育院	国際高等教育院棟、吉田南1、2、3号館、吉田南総合館 →吉田グラウンド 近衛館 →近衛館玄関前の空き地周辺 旧石油化学研究教室本館 →本部棟北側の空き地周辺	吉田グラウンド 本部構内正門前広場	国際・共通教育推進部総務掛	075-753-9346	A30kyouikuin-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
環境安全保健機構 環境管理部門	総合研究2号館南側(道路側)の玄関前スペース	本部構内正門前広場	環境管理部門事務室	075-753-7700	eprc-staff@eprc.kyoto-u.ac.jp
環境安全保健機構 安全管理部門 エネルギー管理部門	楽友会館別館玄関前	吉田グラウンド	安全管理部門事務室	075-753-3308	css-all@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
環境安全保健機構 放射線管理部門	医学部構内 →放射線管理部門教育訓練棟南側の玄関前 北部構内 →放射線管理部門分館東側の玄関前	医学部構内 →芝蘭会館東側テニスコート周辺 北部構内 →農学部グラウンド	放射線管理部門事務室 放射線管理部門分館管理室事務室	075-753-7500 075-753-7530	ri-all@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
環境安全保健機構 構産業厚生部門	カンフォーラ西側 健康管理室玄関前	本部構内正門前広場	施設部環境安全保健課 保健衛生掛	075-753-2400	810hoken@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
環境安全保健機構 低温物質管理部門	総合研究5号館西側の玄関前 北部・液化棟南側の道路	農学部グラウンド	北部・液化棟 低温物質管理部門事務室	075-753-4055 075-753-4057	helium@www.ltm.kyoto-u.ac.jp jimu@ltm.kyoto-u.ac.jp
男女共同参画推進センター	芝蘭会館東側テニスコート周辺	芝蘭会館東側テニスコート周辺	人事部職員育成課 ダイバーシティ推進室	075-753-2235	g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

宇治キャンパス

名　　称	一時集合場所		避難場所	緊急時の連絡先		
	建　　物	集合場所		連絡先	電話番号	E-Mail
化学研究所	本館N棟	本館N棟北側	生協食堂南側空地	宇治地区事務部 総務課総務掛 宇治地区守衛所 （夜間・休日）	0774-38-3333 0774-38-4350 （夜間・休日）	uji.kinkyu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
	本館M棟、本館W棟	総合研究実験1号棟西側				
	総合研究実験1号棟、本館S棟	総合研究実験1号棟南側				
	共同研究棟	本館N棟西出口・共同研究棟南側				
	極低温物性化学実験室、極低温超高分解能電子顕微鏡室、超高分解能分光型電子顕微鏡棟					
	核酸情報解析棟、情報研究棟、生物工学ラボラトリー	核酸情報解析棟南側				
	イオン線形加速器棟、レーザー科学棟	高度マイクロ波エネルギー伝送実験棟北側				
エネルギー理工学研究所	本館W棟、本館M棟、本館N棟、南1号棟、南2号棟、南3号棟、北1号棟、北2号棟	総合研究実験1号棟西側				
	北3号棟、北4号棟	北4号棟南側				
生存圏研究所	総合研究実験1号棟、本館S棟、本館M棟、本館N棟	本館S棟南西側				
	マイクロ波エネルギー伝送実験棟、宇宙太陽発電所研究棟、高度マイクロ波エネルギー伝送実験棟					
	ナノハウス、ナノファクトリー、材鑑調査室、居住圏劣化生物飼育棟、木質材料実験棟（木質ホール）ほか					
防災研究所	本館E棟北側	本館E棟北側				
	本館E棟南側、本館S棟（一部）	本館E棟南側				
	本館S棟	本館S棟南東側				
	地震災害研究センター、耐震構造実験室、防災研風洞実験室、連携研究棟ほか	生協食堂南側				
工学研究科	工学風洞実験室、超空気力学実験室	イノベーション拠点施設東側				
	放射実験室	総合研究実験1号棟西側				
農学研究科	本館M棟	本館E棟東側				
エネルギー科学研究科	北４号棟	北４号棟南側				
学生総合支援機構 宇治相談室・こころの保健室	大学生協	生協食堂南側	生協食堂南側空地	教育推進・学生支援部 学生課総務掛	075-753-2505	840gakusei-soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

桂キャンパス

名　　称	一時集合場所	避難場所	緊急時の連絡先		
			連絡先	電話番号	E-Mail
工学研究科・工学部	桂キャンパス（Aクラスター） →Aクラスター事務区事務室前の広場	Bクラスター北側の駐車場・ Bクラスター内のグラウンド（御陵公園東面）	桂地区（工学研究科）事務部 総務課総務掛	075-383-3500	090ssoumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
	桂キャンパス（Bクラスター） →Bクラスター事務管理棟（インテックセンター棟）前の広場				
	桂キャンパス（Cクラスター）→Cクラスター中庭				
学生総合支援機構　桂相談室	Bクラスター事務管理棟（インテックセンター棟）前の広場	Bクラスター北側の駐車場・ Bクラスター内のグラウンド（御陵公園東面）	教育推進・学生支援部 学生課総務掛	075-753-2505	840gakusei-soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

熊取、犬山、大津各構内

名　　称	一時集合場所	避難場所	緊急時の連絡先		
			連絡先	電話番号	E-Mail
複合原子力科学研究所	複合原子力科学研究所テニスコート	複合原子力科学研究所テニスコート	複合原子力科学研究所総務掛	072-451-2310	soumu2@rri.kyoto-u.ac.jp 410soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
ヒト行動進化研究センター	ヒト行動進化研究センター本棟前	ヒト行動進化研究センター駐車場 （旧テニスコート）	ヒト行動進化研究センター 総務掛	0568-63-0512	soumu_reichou@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
生態学研究センター	生態学研究センター正面玄関前の広場	生態学研究センター東南の圃場	生態学研究センター事務室	077-549-8200	620groupa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

地震対応マニュアル「学生用」

令和７年４月　第１１版発行

京都大学コンプライアンス部